



2026年6月発行
恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111(内線208)
FAX 0573-25-7129
MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は、恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。QRコード→

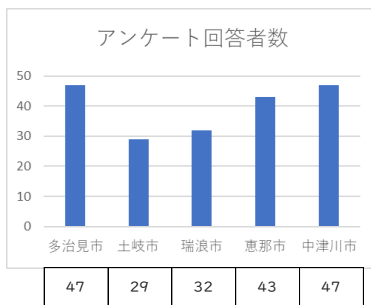


家庭教育学級リーダー研修会 ありがとうございました

本研修会の「学び」が、家庭教育学級運営、家庭教育支援の「喜び」につながり、親子が元気になる活動の一助となることを願っています。

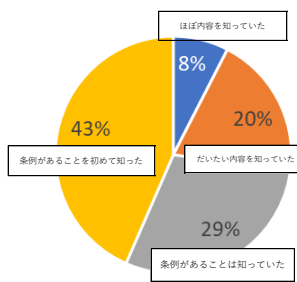
アンケート結果報告

Q1 市ごとアンケート回答者数



総参加者は243名。内訳は保護者107名、学校、園、所関係者108名、市町村関係者28名。昨年度より21名減少しました。

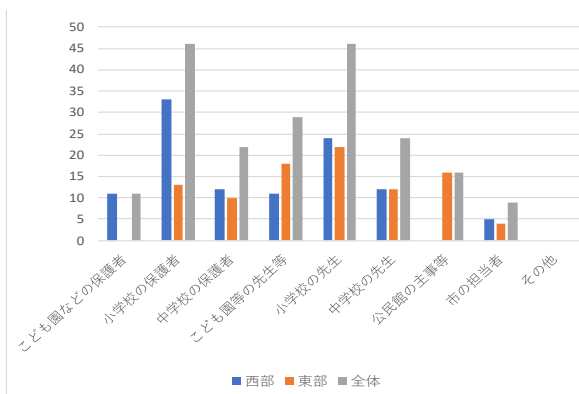
Q4 家庭教育支援条例について



家庭教育支援条例の認知度は低く参加者の約4割が「岐阜県家庭教育支援条例」について初めて知ったと回答されていました。特に参加した保護者の多くの方が初めて知ったと回答していました。

Q2 アンケート回答者数

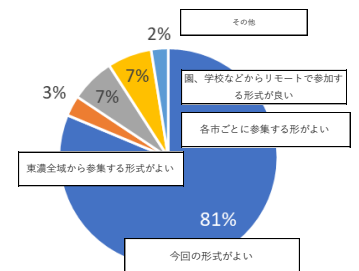
アンケートの回答率は81%で昨年度より6ポイント減少しました。アンケートに回答する時間を確保する必要性を感じています。



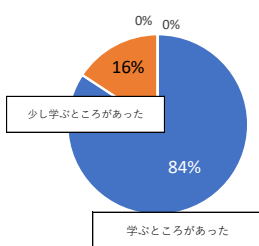
Q5 開催形式について

研修形式については8割の方から「よい」との回答がありました。次に多かったのは「各市ごとに参集」「リモート参加」の回答が7%でした。

実際に「つながり」をつくるのは、今回のようにサロン型で対話をするのが効果的であることが実証されています。



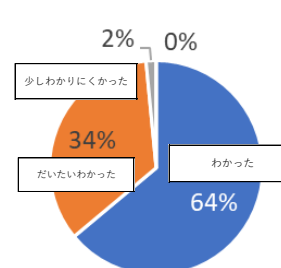
Q3 研修会について



回答いただいた意見の中に「学校と家庭が連携できるとても大切な研修なので、続けていってほしい。」とありました。

この研修の意義をよく理解してご参加いただいていると感じました

Q6 県の説明について

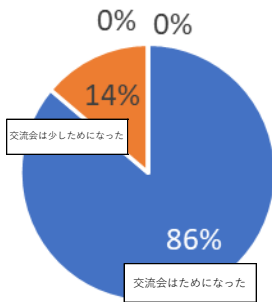


県担当者の説明等になぞり姿、メモを取る姿などで応えていただきました。多くの方に真剣にお話を聞いていただきました。

ありがとうございました。



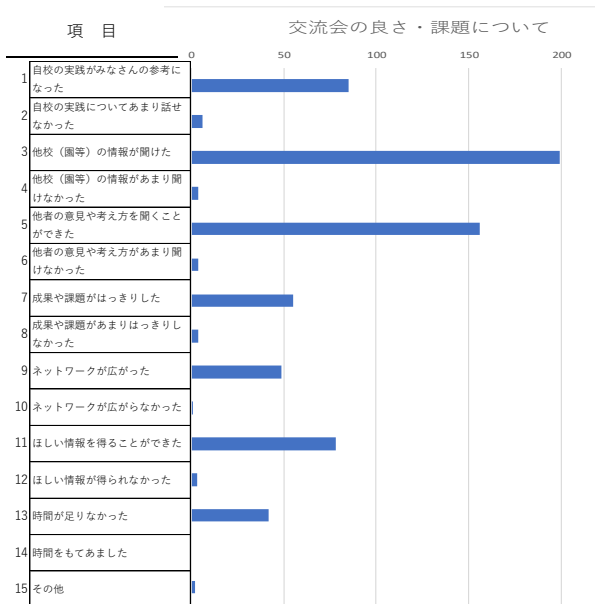
Q7 小グループの交流会について



全員が交流会は「ためになった、少しはためになった」との回答でした。交流会では、保護者の方が自校の実践を紹介し、教頭先生がフォローをするという様子が随所で見られました。

笑顔、うなずき、拍手など「傾聴」のお手本のような反応があるグループがほとんどでした。

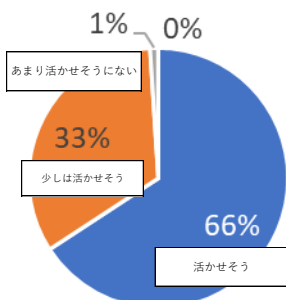
Q8 交流会について(理由)



「交流会がためになった」理由の多数の意見を占めたのは「他校の情報が聞けた」「他者の情報、考えを知ることができた」というものでした。

多くの方に積極的に交流会でご発言いただき、必要な情報の収集や、ネットワークづくりのきっかけとなったのではないかと思います。

Q9 この研修の活用について



参加者の99%の方に、本研修会が今後に「活かそう、少しは活かそう」と回答いただきました。

参加者の研修姿勢に当事者意識の高さを感じました。

Q10 ご意見・ご感想について

<東濃東部会場>



○本日は初めて参加させて頂きました まだまだ慣れない日々で私に何ができるのか わかりませんが不安や心配事を抱えているお父さんお母さんに少しでも寄り添って、心のうちの言葉を話したいと思ってもらえる様な存在になりたいとおもいました。

岐阜県家庭教育支援条例を広めていきたいです。

○毎年参加しています。中津川市、恵那市との交流があるのは、とても有意義だと思います。交流会の時間を長くってほしいです。

<東濃西部会場>



○他市の実践が聞けたのがとてもよかったです。集まるのは大変かもしれませんが参集だと直接顔を見て交流ができるので、よかったです。

○地域の力をかりたり、保護者と教員が協力したりするなど、どの学校でも「子どもたちのために」という思いをもって活動していることが交流を通してわかりました。これらの活動を続けていく上でのキーワードとして「持続可能的に」ということも考えることができました。子供達のための活動を「楽しみながら」取り組むためには、どのように企画をすればよいか、今年一年かけて実践を通して考えていきたいと思っています。

○他校との交流会は、この一回しかないため、もう少し時間が欲しかったです。

この会は、貴重な時間だと思うので、毎年続けてほしいです。